

第18回遠野市史編さん委員会 会議録

日 時 令和5年10月30日（月）13：22～14：32
場 所 遠野市立図書館 視聴覚ホール
出席委員数 9人中8人出席
出席委員 荒田昌典、岩崎真幸、大橋進、熊谷常正、今野日出晴、斉藤利男、
菅原伴耕、藤田俊雄
欠席委員 兼平賢治
事務局 朝倉優香 市史編さん室長
前川さおり 市史編さん室次長
阿部信代 市史編さん室主任
佐々木結花 〃
高橋 唯 〃 主事

（進行：朝倉室長）

1 開会

2 挨拶（副市長）

3 報告（進行：大橋委員長）

(1) 令和5年度経過報告

- ・ 遠野城絵図受け取りとあるが、どのような絵図か。
⇒ 前回の市史編さん委員会の際に見ていただいた絵図である。市史編さん室を通じて、遠野市に寄贈いただいた。

(2) 遠野市史編さん事業全体計画の変更について

質疑なし

4 協議

(1) 『新編遠野市史』の原稿として提出される著作物の利用に関する覚書の修正案について

◎ 提案のとおり承認。

- ・ 覚書を取り交わすのはどの段階になるか。
⇒ 直近で執筆いただいている原始・古代・中世部会の先生方は、すぐ取り交わしていただく予定である。

(2) 資料編の表紙デザインについて

○ 基本デザインはB案に決定。

- ・ B案は重厚感があるが、重すぎる。色を薄くしたらどうか。
- ・ 『資料編 考古』の題字は横書きになっているが、他と同じく縦に統一したほうがよい。
- ・ グラデーションは、下を濃く、上を薄くしたほうが落ち着く。

- ・ 文字が見えるように、白抜き文字と黒文字、両方のデザインをつくってほしい。
⇒ 表紙の色と文字色は各意見をふまえ再度デザインを依頼する。委員へデザイン案を郵送し、投票してもらい多数決で決定する。12月中の決定を目指す。
また、『資料編 考古』の題字は縦書きとする。

(3) その他

- ・ 『阿曾沼興廃記』の存在しない漢字の取扱いについて
『遠野市史叢書4阿曾沼興廃記』の底本とした華巖院泰堂写本には、存在しない漢字が使われている箇所がある。『南部叢書』などでは意味がとれる漢字に置き換えているが、忠実な翻刻とするかどうか意見を伺いたい。
⇒ 存在しない漢字は作字し、その部分は括弧で常用漢字またはフリガナを振る。

5 各部会から進捗状況報告

- ・ 『資料編 考古』の文字原稿はほぼ入稿済み。現在は図版を入れる作業を行っている。次の会議でページ数を確定させたい。
- ・ 『資料編 古代・中世』の文字原稿は99パーセント完成。
- ・ 近世は粗原稿提出の段階だが、そろっていないのが実情。やはり600頁では足りない。三翁昔語後編や八戸家伝記後編も翻刻してもらっているので、DVDに収録したり、市史叢書で刊行することを考えていきたい。
- ・ 小泉委員がアメリカから帰国して精力的に調査を行っている。学校資料を中心に調査を行っているが、学校日誌からも社会の動きが見える。
- ・ 民俗は12月に部会を行う予定としている。もう少し細かいところまで項目を固めていきたい。
- ・ 他の部会でDVDを導入することについて議論されていたので、民俗編でも導入を検討する必要があるかもしれないと思った。

6 閉会